



# 大池中学校だより

**大池中学校の学校だよりの真ん中には、いつも大切な子どもたちがいっぱいです**

3月6日 旅立ちの日に…『感謝の思い』がいっぱいつまった卒業式。

旅立つ卒業生の思い。そして引き継ぐ後輩の思い。みんなが大池中学校生で本当に良かったって思える卒業式だったのではないのでしょうか。それだけ、みんなで創り上げた卒業式であり、みんなの心が一つになった、素敵な卒業式になりました。みんなありがとう！  
 やっぱり…『大池中学校は先輩の姿から学べる学校』です！

## 『第78回 大池中学校 卒業証書授与式』

1年教室前の『花道』。1年生みんなの感謝の思いをいっぱい感じ入場した卒業式。3月の風に想いを乗せ、桜のつぼみは、季節は、着実に夢と希望がいっぱいの春へと続きます。

卒業式での「答辞(とうじ)」。卒業生を代表して、3年1組「〇〇〇〇(〇〇〇〇〇〇〇)」さんが、3年間の思いを込めて、感謝の思いを込めて伝えてくれました。〇〇さんの思いを、2年生はもちろんこと、卒業式に参加できなかった1年生のみなさんにも、ぜひ読み取って、その思いを感じて、これからに必ずつなげてほしい。



日々の仲間との関わり、先輩や後輩との関わり、先生方との関わりという「関わることによって生まれた信頼関係と絆(きずな)」を、3年間の授業、行事、部活動、生徒会活動の中で大切に育み、みんなで一生懸命に取り組んできた成果が、卒業式の〇〇さんの心を込めた答辞として現れ、卒業生の涙として現れ、あたたかな雰囲気の中で、卒業生一人一人の凜(りん)とした姿と背中としてしっかりと現れていたと思います。

卒業生からの「心のバトン」は、いま、2年生・1年生の後輩のみなさんにしっかりと引き継がれました。4月には、新たな仲間としての新入生が入学します。3年生の先輩が後輩とともに創り上げた『心の通う、あたたかくて居心地が良い、一人一人にとって大切な居場所』となる学校づくりを、みんなでスタートさせましょう！1日1日の積み重ねを大切にしながら……。

### 答辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、雛たちも巣立ちの準備をはじめの季節が訪れようとしています。私たち一七九名も大池中学校を卒業し、新しい一歩を踏み出す時を迎えています。思い返してみれば、色とりどりの思い出が少しも色褪せず、蘇ってきます。

三年前の春、自分の体よりも一回り大きな制服を身にまとい、期待と不安を抱きながら迎えた入学式。教室には、見慣れないクラスメイトの顔。緊張してうまく笑えていないみんなの顔は微笑ましい記憶として心に刻まれています。

中学校生活で初めての行事は自然教室でした。出会って二週間の仲間と意見を出し合って挑んだ大池ウォッチング。道に迷ったり、時には天候が危うくなったり、色んなことがあったけれど仲間と協力することの大切さを知る第一歩となりました。

二度目の春、部活動や委員会活動の中心となり、先輩としてのあるべき姿を意識し始めました。初めは、「本当に私たちにまとめ役が出来るのか」と不安な気持ちでいっぱいでした。ですが、先生方や三年生の先輩方、何より、同じように頑張る仲間のおかげでどんな葛藤も乗り越えることが出来ました。

二年生の頃を振り返ると、最も心に残っているのは生徒会活動に打ち込んだ経験でした。私がまだ入学したばかりの頃、対面式で聞いた生徒会長のスピーチに心を動かされ、いつか私もあの先輩のように後輩の心を掴む存在になりたいと強く思うようになりました。ですが、いざ自分が生徒会長に立候補するとなると、自信がなくなってしまい、「本当に自分はこの先輩のような生徒会長になれるのか」という不安と迷いが出てくるようになりました。ですが、当時の担任の先生がこう声をかけてくれました。「決めるのはあなた自身だけど、先生はできると思ってる。迷っているなら、やってみたらいいんじゃない。」私はその言葉を聞いて、背中を押された気持ちになり、生徒会長に立候補することを決めました。私を信じてくれた先



生には、感謝の気持ちしかありません。

実際の生徒会活動は、想像していたよりも大変で、全校生徒が過ごしやすい学校をつくることは簡単なことではありませんでした。ですが、大きな壁にぶつかるたびに、一緒に迷って悩んでくれる生徒会役員みんながいて、先生方にも支えてもらいました。さらに学園との交流会や人権フェスタ、体育祭の生徒会種目実施のために、放課後に残って計画を立てたあの日々は、どこを切り取っても私を成長させてくれた出来事で、大切な青春です。



そして迎えた三度目の春。私たちは最高学年となり、何をやるにしても「中学校生活最後」という言葉がつくようになりました。新しいクラス・担任の先生で臨む修学旅行。一か月前から計画を立て始めました。みんなの表情が期待で満ちていたことを思い出します。知らない土地を班員だけで行動するのは不安でしたが、どの班もマナーや決まりを守ることができており、この学年の良いところだと改めて感じました。一生忘れることのない思い出を作ることが出来た三日間でした。

体育祭と文化祭の思い出は、やはり三年生が一番色濃く残っています。体育祭では、どのクラスも本番に向けて、一人一人協力しあい、絆が深まっていくのを感じることができました。今年は新たに縦割り表彰が実施され、他学年とのつながりを感じながら、一段と盛り上がった体育祭となりました。私のクラスは、大縄の練習で回数が伸び悩んだこともありましたが、本番では過去最高記録をたたき出し、見事一位になりました。本番に強い一組を実感することが出来ました。



そして文化祭。体育館のステージで歌う、その一瞬のために、クラスの仲間と一生懸命練習しました。ですが、本番を二日後に控えた練習で、なかなか声が揃いません。焦りを感じた私は、涙ながらにみんなに気持ちを伝えました。

「このままじゃ金賞なんて取れない。このクラスが大好きだから、最後の文化祭は笑顔で金賞を取りたい。」誰一人からかたりふざけたりせず、まっすぐに自分自身と向き合ってくれました。私の気持ちを受け止めてくれたクラスのみんなには感謝しています。そして迎えた本番当日。惜しくも入賞には及びませんでしたが、そこで流した涙は、悔しいという感情だけではなかった、と感じています。



中学校三年間は、思っていたよりもずっと早く過ぎ去っていきました。朝、教室に入れば飛び交う「おはよう」の声と満面の笑顔。何気ない会話と笑い声であふれた休み時間。移動教室に間に合うようにと、急ぎ足で向かったあの日々も、明日からはないと思うと、寂しい気持ちでいっぱいです。私たちがそんな充実した日々を送れたのは、いつも親身になって話を聞き、生徒第一で行動してくださる先生方の支えがあったからです。個人・集団としても大きく成長できたのは、先生方がいつでも愛情深く、クラスや仲間と向き合う大切さを、教えてくれたからです。いつも私たちを見守って下さり、ありがとうございました。



そして、在校生の皆さん。素敵な式になるよう、いろいろな準備をしてくれて、ありがとうございました。皆さんの中には、様々な悩みを抱えている人もいると思います。そんな皆さんに伝えたいことは、「自分の気持ちを大切に」です。残りの一年間はあっという間に過ぎていきます。時には、仲間とぶつかることもあるかもしれませんが。そんな時は、相手の気持ちも、そして自分の気持ちも大切にして、お互いに向き合ってみてください。これからは大池中学校の代表として、後輩の見本として誇れる姿を見せて下さいね。応援しています。

いつも支えてくれたお母さん、お父さん。私がやりたいと言ったことは、いつでも背中を押してくれましたね。時には心無い言葉を言ってしまい、対立することもあったけれど、そんな私を受け入れて、ずっと味方でいてくれてありがとう。いつか素敵な大人になって、恩返しができるように頑張ります。

そして、三年間を共に過ごしたみんな。大池中での三年間は、みんなのおかげで一生忘れることのない宝物となりました。いつの間にか、みんなの明るい笑顔が私の原動力となり、学校に来る楽しみになっていました。そんなみんなに伝えたい言葉は、「ありがとう」です。この言葉には秘められた力があります。相手を喜ばせたり、自分も嬉しくなったり。いつだって感謝の気持ちを忘れなければ、私たちはもっともっと素敵な人に成長できるでしょう。そう思わせてくれたのは、他でもないみんなです。素敵な思い出を、ありがとう。大好きなみんなと大好きな大池中で三年間を過ごせて本当に幸せでした。

私たちは今、新しい扉の前に立っています。それぞれの形で過ごした青春は、色褪せることなく胸の奥に刻まれていることでしょう。この先の人生、様々な壁が立ちはだかると思いますが、それでも、この学校で学んだことを心の支えにして、それぞれの夢に向かって歩いていきましょう。

最後になりましたが、私たちを支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちを込めて答辞とさせていただきます。

令和八年 三月 六日 卒業生代表 ○○ ○○ (「答辞」の全文を紹介させていただきました)